育成 モノづくり人材 Vol. 56

新潟県立新潟県央工業高校

燕三条の技、未来につなぐ

新潟県・燕三条地域は洋食器や爪切り、包丁、工具などの最終製品以外にも、モノづくりに必要な高い技術で知られる。このモノづくり企業の集積地に新潟県立新潟県央工業高校はある。その使命は地域の産業界に優秀な人材を送り込むことだ。最大の特徴は2年生の時に実施する現場実習。地域の産業界と連携し、地域の産業界のための人材を育成することで、地方創生の役割も担っている。

現場実習は6人程度の班に分かれ、交代しながら、受け入れ企業、鍛造作業と樹脂成形作業の補助に取り組んだ。大湊卓郎校長は「最初はつらい、厳しいと不満が多いが、後半になると自信がつき、たくましくなる」と生徒の成長ぶりに目を細める。

大湊校長

【DATA】▷校長＝大湊卓郎氏▷所在地＝新潟県三条市▷学科構成＝機械加工科、電子機械科、情報電子科、建設工学科▷生徒数＝532人（16年5月1日現在）▷実習設備＝NCフライス盤、マシニングセンター、CAD／CAM、旋盤など▷主な進路先＝兼古製作所、共栄鍛工所、三條機械製作所、パール金属、東陽理化学研究所、北陸ガス、東北電力、長岡技術科学大学、日本大学、金沢工業大学、新潟工科大学など

ただ、企業にとって多くの生徒を受け入れる負担は少なくない。大湊校長は「経営者をはじめ、高校のOBが多く、後輩を育てようという意識が強い」と説明する。生産性が向上したケースもあり「仕事の覚えが早い」と評価が高い。

現場実習で生徒はたくましくなる

外部から技能士を招き、国家検定である技能士の資格取得の指導も行っているが、地域の企業から汎用的な技術が求められていることから、現場実習などを通して「基礎をしっかり教え込む」（大湊校長）ことに重点を置く。

3月に卒業した約180人のうち、130人以上が就職。その過半数が地域の企業に就職することからも、地域産業界と緊密な関係があることが分かる。生徒は地域の産業界から現場のリーダーとして期待されている。

大湊校長は生徒に対し「燕三条は伝統的な技能と先端的な技術が1カ所に集約されている地域だ。独自の技術を持った中小企業が多く、働きがいがある」と訴える。「生まれ育った地域に愛着を持ち、地域を支える人間になってほしい」とまず地域ありきの教育方針を強調する。

（編集委員・中沖泰雄）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社